



訪れたいまち

滋賀県彦根市

琵琶湖の東に位置する滋賀県彦根市。いまでも江戸時代に旧彦根藩井伊家のお膝元として繁栄した城下町の面影を色濃く残す。今回は、歴史的風致維持向上計画の認定市であり、「優秀観光地づくり賞金賞(国土交通大臣賞)」も受賞している彦根を訪れてみました。

新幹線米原駅まいばらから在来線に乗り換えて一駅。古くから交通の要衝として栄えてきた町ということもあり、アクセスは思いのほかいい。

彦根駅の改札を出ると、まずは旧彦根藩初代藩主、井伊直政公の銅像がお出迎え。駅から西に真っすぐ延びる「駅前お城通り」の向こうには、雄々しい彦根城が建つ彦根山の青葉が見えている。

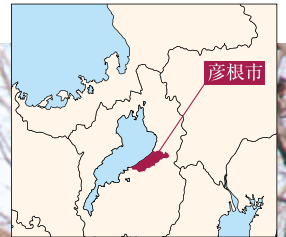


井伊直政公銅像

旧彦根藩初代藩主。徳川家康の側近として名高く、戦国屈指の精鋭部隊「井伊の赤鬼軍団」を編成。幕末まで井伊氏の軍装は赤が基本とされた。

彦根市は、国宝・彦根城を中心に江戸時代の城下町の風情が色濃く残る町だが、近年は、住民主導のまちづくりにより、江戸町家風に統一した商店などが並ぶ「夢京橋キャッスルロード」や、大正ロマンをコンセプトとした「四番町スクエア」などが誕生し、新しい魅力を発信している。また、2007年の「国宝・彦根城築城400年祭」をきっかけに、市民団体などによる彦根の観光を盛り上げる動きが一層高まっている。

「私は彦根が好きなんです。俗化される時代が続き、だんだんと昔の町なみが薄れつつある中、彦根にはまだまだ細い路地があったりして楽しいんです。それに、一時は衰退した町を『彦根城』から『夢京橋キャッスルロード』、そして『四番町スクエア』へと、点から線、線から面へとといった、人の流れを



夢京橋キャッスルロード

慶長8年(1603)の彦根城築城とともに行われた城下町の町割りはこちらから始まった。昭和60年(1985)から街路整備が実施されることになり、城下町の風情を失うことなく伝統的な町なみを再生することになった。その後、住民主導の新しいまちづくりは平成11年(1999)に整備を終えた。

